

阿倍仲麻呂

天の原ふりさけ見れば
春日なる三笠の山に出でし月かも

天の原ふりさけ見れば
春日なる三笠の山に出でし月かも

天の原ふりさけ見れば
春日なる三笠の山に出でし月かも

天の原ふりさけ見れば
春日なる三笠の山に出でし月かも

【作者】安倍仲麿（あべのなかまろ）（六九八～七七〇年）十九歳の頃、遣唐使として中国の唐へ渡った留学生の一人。時の玄宗皇帝に気に入られ、中国名「朝衡（ちようこう）」として五十年以上仕えた。一度帰国を許されたが、途中で船が難破して引き返し、結局帰れぬまま唐の地で没す。盛唐の大詩人である李白や

王維とも親交があった。

【語釈】*天の原…：大空のこと。「原」は、「海原」と同じく、大きく広がっている様子を表す時に使われます。

*ふりさけ見れば…：遠くを眺めれば、という意味。

*春日なる…：現在の奈良市春日野町あたりの土地で、奈良公園から春日大社までの土地。遣唐使

の出発に際しては、春日神社で旅の無事を祈ったといわれます。*三笠の山…：春日大社後方、春日山原始林の手前にある山。若草山と高円（たかまど）

山の間にあります。*出（い）でし月かも…：「かも」は奈良時代に使われた詠嘆の終助詞です。かつて見た三笠山の上に昇る月を表しながら、唐の地

で今見ている月を重ねています。

【通釈】天を仰いでるか遠くを眺めれば、月が昇っている。あの月は奈良の春日にある、三笠山に昇っていたのと同じ月なのだなあ。

【参考】安倍仲麿は遣唐使として唐に渡り、そこで驚くような秀才ぶりを発揮して玄宗皇帝のお気に入りとして高位の役人になった人です。しかし、あまりに氣に

入られたため、日本に帰ることを許してもらえませんでした。唐にいて望郷の思いがつのる仲麿でしたが、三十年を経てようやく帰国を許され、明州（現在の寧波（ニンポー）市）で送別の宴が催された時に詠まれたのが、この歌でした。船は難破し、結局戻った中国で五十四年暮らして、七十二歳でその生涯を閉じます。仲麿が逝去した時は、あの中国の大詩人・李白も悲しみ、「晁卿衡（ちようけいこう）を哭す」という詩を作っています。